



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2011.2.7

No. 34 - 58

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan

AGE 委員会

〒144-0043

東京都大田区羽田5-11-4

フェニックスビル

TEL.03-5705-2770

FAX.03-5705-3274

E-mail:office30@alpajapan.org

IFALPA AGE Committee in Buenos Aires 出席報告

11月5、6日の2日間、アルゼンチンの首都ブエノスアイレスで IFALPA AGE Committee Meeting が行われました。日乗連からは AGE 委員長が出席し、D 滑走路供用後の東京国際空港(羽田)について、最新の状況を報告し、更に日乗連羽田空港プロジェクトチームが引き続き取り組んでいる事柄を説明しました。会議には欧米と南米の Pilot が多く参加し、大変有意義な意見交換や議論が行われました。羽田に関しては前回同様、参加者全員が大変な興味を示し、活発な意見や質問が挙げられました。



<主な Committee での議題>

- ・ ロンドンのヒースロー空港周辺の貯水池に航空機が墜落した際に、香港国際空港のように人命救護を行う救難艇を装備するべきでないかという意見を基に、救難艇に関する議論が盛り上がった。一方で、大変な費用を伴う設備なので慎重な意見も挙がった。
- ・ 南アフリカ共和国の Pilot からの報告では、King Shaka 空港で駐機所を十分に整備しない状態のまま沢山の航空機を受け入れてしまい、降機できなかったが約 4000 人がサッカーワールドカップの準決勝を見逃したと言う事例も報告された。
- ・ RWSL(Runway Status Lights)がパリの CDG 空港にも整備され、世界的に広がっている。各国の RWSL システムが統一できる様に、早急に RWSL に関する Policy を確立する。
- ・ 世界中の空港で、経費削減対象に救難救護体制が標的になっている。各空港、SMS(Safety Management System)を高め、必要な装備はしっかりと備え、更に必要な訓練を行う。
- ・ 空港において、緊急時に管制塔と救難車両が Communication 可能な特別周波数を設ける必要がある。また、この周波数はある程度世界中で統一されるべきである。
- ・ 誘導路名称に関する IFALPA Policy に関して、引き続き ICAO Policy への導入が期待されているが、現時点でも世界的な空港に関する組織 ACI(Airports Council International)に受け入れられていない。当初は来年にも ICAO に反映される見通しであったが少し遅れる状況である。引き続き柔軟な議論を進め、一日も早い ICAO Policy 化を目指す。
- ・ 機上システムへの応用を含め、Bird Radar に関して引き続き様々な議論が挙がった。

等等・・・

最後に

羽田空港では、最終的な離発着目標値 40.7 万回に向けて更なる交通量の増加が予想されます。

日乗連 AGE 委員会は、より安全な空港を目指し今後も積極的に取り組んでいきます！

